

西表財団ゆんたく会

いただいたご意見・ご要望・ご質問とそれに対する回答一覧

① 西表財団の運営についてのご意見・ご要望・ご質問について

西表財団の運営体制や組織そのものについて、様々なご意見、ご質問をいただきました。回答欄に西表財団からの回答を記載しました。

ご意見・ご要望・ご質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・今回のゆんたく会に関しては、広報が十分でなかったと思う。今後、改善してほしい。 	<p>ゆんたく会は、各公民館長へのご案内、掲示板等へのチラシの掲示、財団ホームページ・SNSでの広報をしましたが、今後はさらに住民のみなさんに届く形での広報を行っていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・こういう場（ゆんたく会）で簡単にコミュニケーションができるわけではなく、本来であれば日々の生活の中の何気ない会話の積み重ねの中でこそコミュニケーションは可能になる。このような話し合いのやり方そのものにも疑問を感じる。 	<p>今回は、まずは西表財団の存在を知っていただき、気軽に住民のみなさんにご意見を言うだけのように、ゆんたく会という形式をとりました。今後は、財団の職員や理事が、それぞれの地域で住民のみなさんとの対話を積み重ねながら、課題に対応していきたいと考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・住民の声を聞き、問題・課題点を町や国に伝えてほしい。 ・様々なことについて情報共有するのも財団の役割。住民と町とのパイプ役になってほしい。 	<p>なるべく早く組織の体制を整えて、住民のみなさんのご意見・ご要望に対応したり、行政機関へのパイプの役割も担えるよう取り組んでいきます。情報発信や情報共有も積極的に行っていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・島で起こった問題は町に言えばよいのか、財団に言えばよいのか、窓口はどこになるのか？財団がまず窓口になり、ケースごとに振り分けていくのがよいのではないのか。 ・町へ要望をあげていたものが、これからは財団にあげることになるのか？ ・島内でも地域性があり、個々の意識や職業も違う中で、どのように意見を集約していくのか？多数決で決めるのか？個人個人が苦情を訴えても町は全く動いてくれない。 	<p>財団が全ての窓口になるわけではないですが、必要に応じて要望を行政に振り分けたり、多くの人から同じ課題についての声があがってくるようであれば、財団からも行政機関に要請するなど、伝える役割は担っていきたくと考えています。様々な立場からの意見を集約するのは難しいですが、持続可能な地域の発展を考えた時に最適な答えを出すために協議していきたいと考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・理念はわかるが具体的に何をするのか？ ・これからどのようなことをしていくのか？ ・基本理念は記載されているが、その具体的な方法が書かれていない。 ・今後、住民の声をよく聞いて、財団が何をするのか明確化してほしい。 	<p>目的達成に向けて、「受託事業」と「自主事業」を行っていきます。今年度は、自然環境の保全・管理や適正な観光管理の実現に向けた受託事業が主となり、具体的には、フィールドのモニタリングや整備、観光管理の仕組や運用の検討などを行っていきます。自主事業については、当初は理事会で決めていき、徐々に住民のみなさんの要望を</p>

	<p>事業化できるようにしていきたいと考えています。今年度の自主事業については、随時公表していき、住民のみなさんに参画いただける事業も実施する予定となっています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の運営のための財源はどう確保するのか？ 	<p>寄付金等の初期の資金と受託事業の収入で、3～5年後までの資金の用途はついていきます。今後は、事業に対して資金を集めたり、外部からの寄付等の支援も得ながら、健全な運営体制を持続できるよう自主財源の確保をしていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・雇用を生み出すことはできるのか？若者が少なく、島に帰ってきてても仕事がない。 ・青年会や壮年会に何か仕事を依頼する予定はあるのか？あまり収入源がない青年会などに仕事があるとありがたい。 	<p>すぐには多くの雇用を生み出すことはできませんが、地域での人材育成や雇用創出は、財団の目指すところでもあり、そのためにまずは運営の基盤を作りあげていきます。地域の青年会など諸団体に依頼できる業務があれば、適宜依頼していきたいと考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・財団の理事は、選挙で選出してはどうか。 ・地域の人が財団の理事になっているので身近に感じる。 ・理事に多様性があってよいと思う。 ・課題が多いと言われているカヌー組合からも理事を入れてはどうか。 	<p>理事は西表島の各地区から様々な業種の方々に就任いただき、なるべく広く課題を拾い上げられるようにしました。理事の任期は2年で、改選の際にはその時の財団の運営状況や課題を考慮した上で、理事を選出したいと考えています。なお、森本理事がカヌー組合に所属されています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム協会を立ち上げた時と、同じような心境にある。エコツー協会と趣旨や事業が重なる部分もあるが、今後の関わり方次第でおもしろくなると思う。財団には専門的な分野を取り入れて、エコツー協会で、手が回らなくてできなかった部分をやってほしい。ただ、窓口は一つにしてわかりやすい方がよい。 ・町にもエコツーリズム協会にもできないことをやってほしい。 ・エコツーリズム協会と財団との違いがわからない。 ・エコツーリズム協会が行っていた仕事が今後財団に移るのか？ 	<p>NPO 法人として独自の活動を展開してきた西表島エコツーリズム協会に対して、西表財団は竹富町から財政的・人的支援を受けてスタートしており、事業規模がより大きく、外部からの支援も受けやすい組織としていく予定です。理念や活動は、重複する部分もありますが、互いに連携・役割分担して様々な課題に取り組んでいくことで、これまでに解決できなかったものにも対応していけると考えています。役割分担の中で、必要であればこれまでエコツーリズム協会がこれまで担っていた業務が、一部財団に移る可能性もあります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・農業、水産業に携わる住民の今までの暮らしが損なわれない形で、未来に繋げるような目的を加味した財団運営に取り組んでほしい。 	<p>自然や文化と共に営みを守ることを基本理念の中に掲げており、農業や水産業も大切な営みと認識しております。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・西表島では自然保護・観光・住民の生活など、部分的には対極している問題があり、財団にも総合的な到達点を模索するよう協力してほしい。 	<p>自然環境の保全と利用の最良のバランスを見出すことは、将来に渡っての課題と考えておりますので、住民や多くの方々と協力して取り組んでいきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なところで、軋轢、乖離が見られる。国立公園や世界遺産になったことで規制が入ることと、生活の中で自然を利用してきたこととの乖離があり、現実の暮らしとの違和感がある。また、移住してきた人と島人との間での価値観や生活様式の違い、農業や漁業などと観光業との間で理解し合えない部分、行政と島民との乖離もある。財団がこれらの溝を埋められるか、期待もあるし、本当にできるのかという疑問もある。 ・竹富町の中では、西表島は他島と地形が異なることから画一的な町の判断では規格に外れる時がある。(消防団の設備等) 西表島に特化した財団ができたことには期待している。 ・沖縄の復帰 50 周年であったり、役場の建て替えがあったり、新たな道をつくるのにはよいタイミング。財団が核になってやっていかなくてはいけない。 ・観光案内人条例など、町からの情報開示が少ないので、財団には透明性のある運営を期待している。 	<p>いただいているご期待に対しておこたえできるように、取り組んでいきます。</p>

② 西表財団が取り組む事業についてのご要望・ご質問について

西表財団が取り組む事業について、様々なご要望・ご質問をいただきました。現時点ではやる・やらないという回答ができるものがほとんどありませんが、今後の事業計画策定の際に一つ一つ事業化の検討をさせていただきます。具体的な取り組みが決まっているものについては、西表財団からの回答を斜字で記載しました。

ご要望・ご質問（一部回答あり）
<ul style="list-style-type: none"> ・財団で農地を購入して、農作物を作ったり、小規模畑の貸し出しをしてほしい。農作物は加工販売したりして収入につなげるほか、野生動物の救護ケージを併設してその餌にする。財団で管理し、将来的に地域の人と一緒に管理できるのが理想。
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと世界自然遺産への関心を住民に持ってもらえるよう、財団が働きかけてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・世界自然遺産に登録されたが、池原貞雄先生のように、昔から行政とやり取りして西表のために従事してきた方々の名前が表に上がっていない。先人たちが頑張ってくれたから今がある。自分たちで調べるなり、もっと昔のことを掘り起こして勉強する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ウミガメが増えている問題に対して真剣に対応してほしい。ウミシヨウブやモズクを食べつくされている。海藻は大事な役割を持っている。魚の住処がなくなって魚がいなくなっていたり、砂をせき止める役割もできなくなって砂浜が流されてしまっている。ウミガメを食べることも食文化であったが、今は捕獲するとすぐにメディアに取り上げられたり、声を上げる人がいてやりにくい。
<ul style="list-style-type: none"> ・財団で、地域でがんばっている人や組織に対してサポートをする助成事業をつくってほしい。財団の自主事業もよいが、地域の芽に水を与えるような存在になってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・近年、メディア取材が多いが、住民の意図に反したものもあるので、内容のチェックなどメディアコントロールをしてほしい。竹富町の撮影届についても周知が必要。 ・Youtube に、ガイドを付けずに山に入って紹介する動画があり、安易に入山する人が増えてしまう。財団がコメントで注意を促してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・西表島を対象とした研究のアーカイブ化をしてほしい。多くの研究者が来るが、地域に研究の成果を報告してくれる人がほとんどいない。
<ul style="list-style-type: none"> ・財団が、写真素材などをライブラリー化して、提供してほしい。使用料を取ることもできる。 <p>→財団で西表島の情報が集約されたホームページを作る構想があり、そこに写真素材なども集めていきたいと考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・山岳救助にかかる費用について、島の消防団の仕組や医療事情などを、財団から観光客に事前に説明してほしい。内地で救急車を呼ぶ感覚で利用されると、団員たちの負担が大きすぎる。
<ul style="list-style-type: none"> ・財団が、トラスト運動をして、問題になっている民有地を購入する予定はないのか。 <p>→今のところはありません。</p>

③ 地域の様々な課題や行政の取り組みについてのご意見・ご要望・ご質問について

地域に存在する様々な課題や、行政機関による取り組みについて、様々なご意見・ご要望・ご質問をいただきました。課題として認識し、今後の財団の運営や事業の方針に反映させていきます。一部のご意見・ご質問に対しては、担当行政からの回答を斜字で記載しました。

ご意見・ご要望・ご質問（一部回答あり）
・生ごみコンポストは環境的には良い仕組みだと思うが、実際には不便だし分解が追い付いていない。生ごみ以外にも、観光客の出すごみや、工業者がポイ捨てしたと思われるごみなど、いろいろな問題がある。処理についての工夫や、住民の意識の向上も必要。
・ゴミの捨て方がよくわからない。ライフジャケットは引き取り先がなく困っている。プラスチック容器を分別するために、洗剤を使って洗っていて、それが、川や海に流れ水質に影響しているはず。もっと考えていく必要がある。また、捨てるための料金が高いので、不法投棄に繋がっているのではないか。
・ゴミに対する意識が高くなったように感じる。世界遺産になったからか、観光客のマナーも良くなったように思える。
・住民の西表島への意識を向上させる必要があると思う。
・これまで島では、自然を利用しながら守ってきた。人が利用している中で管理されてきた側面がある。しかし、今は管理をする人がなくなったため、森林や田畑等が荒廃している。イノシシのように守りすぎて、厄介なものになってしまったものもある。守り過ぎて生態系を崩している。
・以前は、農業や狩猟などの営みの中で、川沿いに山の奥の方まで利用していたが、現在は車や農機具が使用できる道路沿いしか使わなくなっており、島内の空間利用のバランスが崩れているように思う。
・今までルールがなくても暮らしは機能していたし、様々な人々のつながりはあった。
・子ども達に子どもの頃から島の自然について学んでほしい。例えばゴミ拾いから自分に何ができるのか考えるようになるので、体感をすることが大切。
・ガイドや宿の人など観光客に接する人が、文化や自然を伝えていく必要があるのでは。より多くの人に関心を持ってもらえるようにしなければならない。
・伝統文化とは何か？何百年前からなのか、何を指すのか、定義がわからない。
・シュノーケルやカヌー、船舶などの事業を行う時、届出先が複数あり、届出先により様式も異なる。同じ内容のことを何枚も書き、何箇所も行かなければならなくて煩雑。一本化してほしい。
・干立集落には、観光客の車がスピードを出して入ってくることが多く、例えば車は県道までとして徒歩でゆっくり回ってもらうなど、仕組みをつくれませんか。
・外から来てくれる人で地域が成り立っている面がある。そことどう折り合いをつけていくかを考えなければならない。
・現状で移住者が多い観光事業に、島出身者の雇用や参入枠を作してほしい。
・観光案内人条例で、免許を取得していない事業者が営業を続けている。見過ごしていてよいのか。財団に権限を与えて取り締まって欲しい。
・観光案内人条例のルール違反者を、財団で見つけてほしい。
・観光案内人の登録料が高額過ぎる。払えない業者もいる。支払った登録料は何に使われているのか。

<p>登録しないと事業ができないと言うのは、脅しのように感じる。</p> <p>・今後の成功のカギは、いかにガイドの質を高めるかだと思う。ガイドは西表で最低3年暮らしてからなるべき。あらゆる分野の講習会、勉強会を提供してほしい。</p> <p>→ (竹富町自然観光課からの回答) 現在まだ経過措置期間中の事業者がございますのでその完了をお待ちしている状況です。ルール違反等に関しては観光案内人条例を適正に執行し対応してまいります。登録料は本制度の運営として必要な講習会の実施等に充てられております。免許の取得・維持に関して様々な講習を実施しておりさらにどのような形で行えるか検討いたします。</p>
<p>・入域料の件はすすんでいるのか</p> <p>・財源として入島税を取る案が出ているが、竹富島は船会社にお問い合わせしたところ失敗したと聞いている。栈橋に改札を作ってそこで回収したらどうか。</p> <p>→ (竹富町自然観光課からの回答) これまでも利用者負担の仕組みの在り方は議論を行ってきていますが、令和2年度からは新しい事例としての原因者課税の考えのもとに行われる他市町村の事例も参考にしながら、利用者負担の仕組み導入に向けた検討課題の整理を行い今年度、「竹富町における利用者負担の仕組み構築に向けた検討会」を発足させ検討会での議論を進めています。</p>
<p>・エコツーリズム推進協議会はまだ存在するのか。財団に移行していないのか。</p> <p>→ (竹富町自然観光課からの回答) エコツーリズム推進協議会は、竹富町が事務局となっており今後も存続し、「竹富町西表島エコツーリズム推進全体構想」の運用などを行っていきます。西表財団は協議会のメンバーでもあり、今後、協議会で決められたルールの現場での運用を担うことなどが想定されていて、協議会と協働で取り組んでいきます。</p>
<p>・「西表島(竹富町)でやってはいけないこと」を船内掲示してはどうか。多くの人に見てもらえるように、特典付きアンケートなどを導入して目に留まるようにするとよい。</p> <p>→ (竹富町自然観光課からの回答) 現在、竹富町観光ルール&マナーアップキャンペーン「ピカフレ」を展開しており、観光客に守ってほしいルールやとってほしくない行動を短い動画にし、離島ターミナルのスクリーンで流しています。</p>
<p>・これまで山菜を取っていて、自分たちが食べる分はいいけど、販売したらダメとされている。でも、泊まってくれた人達にはせっかくの島の食材なので食べてもらいたい。</p> <p>→ (竹富町自然観光課からの回答) 対象とされる植物等にもよりますが採取販売に関しては関連する法令を遵守されたうえで行っていただければと思います。</p>

④ アンケート用紙にご記入いただいたご意見・ご要望

ゆんたく会にご参加いただいた方に、アンケート用紙でご意見・ご要望をいただきました。今後の財団の運営や事業の方針に反映させていただきます。

ご意見・ご要望

島の人たちが参加しやすい（したくなる）財団になって欲しいです！ 1年に1回財団フェスティバルをやりましょう！※私も参加したい 島の達人たちにいろいろ教えてもらいたい

どんな団体かわからず気になっていたのですが、説明会をしていただいてよかったです。ただ、まだ具体的な活動内容が決まっていない状況なので、今日だけではどんな団体なのかつかみきれませんでした。今後の広報、情報発信をお願いします。

住民、島民に周知すると同時に、教育現場の先生方や児童生徒たちに様々な形で参加してもらい、将来的な島の意識形成、人材育成の礎を創る。子どもたちとの関わりから、地域へ問題提起、多数の参加を促し、波及させていければ。「子どもゆんたく会」の開催を提案します。

【ゆんたく会開催概要】

- 日時・会場：①令和4年5月31日（月） 19:30～21:00・離島振興総合センター
②令和4年6月3日（金） 19:30～21:00・中野わいわいホール
③令和4年6月7日（火） 19:30～21:00・祖納公民館／白浜公民館

- 参加人数：①10人 ②13人 ③祖納11人／白浜5人



大原会場



上原会場



祖納会場



白浜会場